

歌壇

大下一真選

特選

木漏れ日の一つ一つが小さくなり散歩道にも夏が近付く

関口 五木田 時子

食後には熱いコーヒー向かい合い君はブラック我はカフェオレ

水道 菅井 茂子

啄木も驚くならん停車場の人混みの中異国語ばかり

大塚 北村 敦子

入選

四月馬鹿桜に雪の天気予報孤独だけれど生きております

音羽 黒坂 進

甘党の苦沙弥先生くしやみの好みたる藤むらの羊羹知るや世の人

本駒込 唐木 よし子

草叢の花の名知らず知れずとも精一杯の生命輝く

千石 菊地 正矩

巨大なるアンモナイトに触れたれば太古の波の音となる胸

本駒込 岡本 千晶

心待ち開花宣言されたけど花粉に黄砂家で足踏み

白山 長濱 晴子

花びらをしっぽにつけた犬と行く桜並木は春が爛漫

白山 鈴木 千寿子

特急券買えずやむなく鈍行に知らぬ駅の名次々楽し

小石川 中野 千鶴子

俳壇

松澤 雅世 選

特選

青岬まだ見ぬ風に画架を組む

千駄木 仲 綾子

胸突の坂で芭蕉とすれ違ふ

小日向 内野 仙也

世を越えて誰の化身か冬の蝶

大塚 野口 文子

入選

リビングに鯉泳がせて五月かな

音羽 黒坂 進

頼りなき風の船頭花筏

白山 坂田 敬子

鯉のぼりここには父権残るらん

大塚 北村 敦子

ヨという記号の描く春満月

千石 菊地 正矩

甘茶仏いちにち濡れて暮れにけり

向丘 丸岡 正児

散り際の花の静けさ惜しみおり

小日向 岸 一樹

ぽたぽた雨に染む桜の意思表示

西片 中島 多津子